

令和7年

火災・救急統計



火事と救急・救助は119番

火事や休日当番医の問い合わせは
テレフォンサービス 86-0119

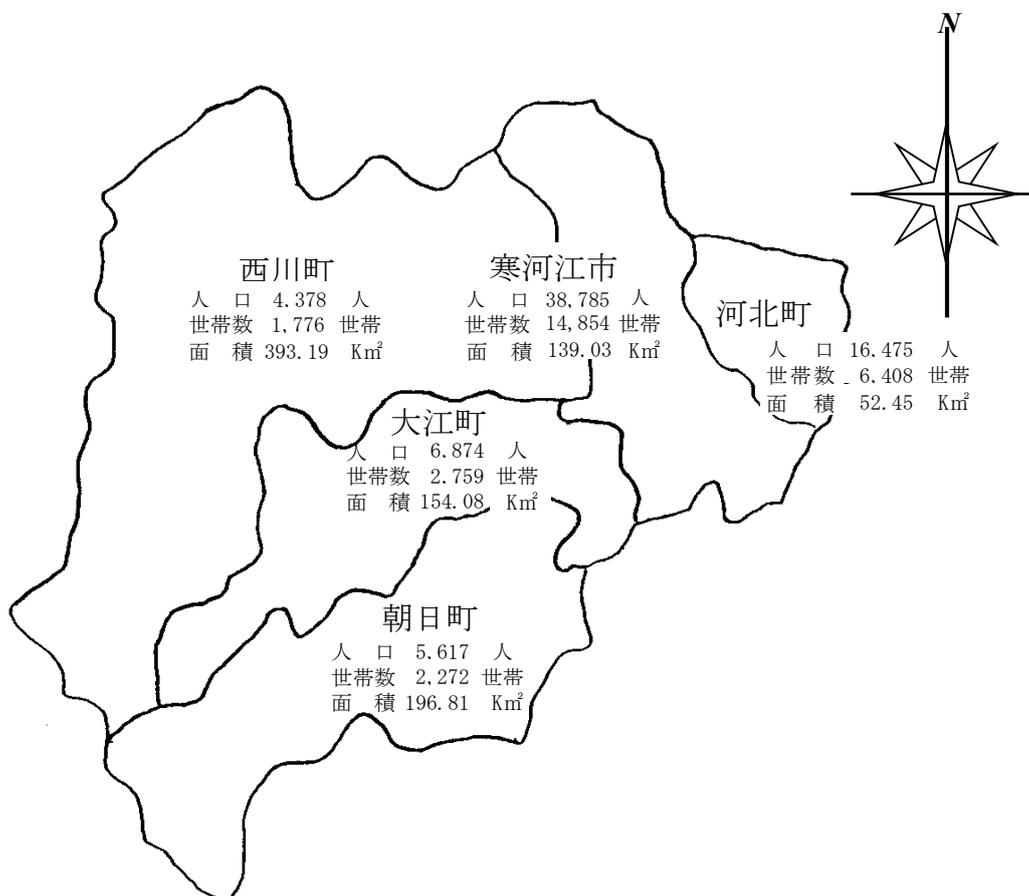
西村山広域行政事務組合消防本部

— はじめに —

この火災・救急統計は、令和 7 年に当管内で発生した火災・救急の状況を分析したものです。

この統計から、火災・救急の実態を知っていただき、今後の火災・救急業務に対する御理解と御協力をいただくために作成したものです。

西村山広域管内 R7.12.31現在



西村山広域管内
人口 72,129 人
世帯数 28,069 世帯
面積 935.56 km²

= 目 次 =

I 火 災	ページ
1 火災の概要	1
2 月別火災発生状況	2
3 火災種別ごとの発生比率	2
4 月別、市町別火災発生状況	3
5 四季別火災発生状況	3
6 時間別火災発生状況	4
7 曜日別火災発生状況	4
8 覚知別火災発生状況	4
9 過去5年間の火災件数と出火率	5
10 過去5年間の市町別火災損害額	5
11 過去5年間の火災種別件数	6
12 過去5年間の焼損程度別棟数（建物火災）	6
13 過去5年間の死傷者数	6
14 過去5年間の出火原因別火災件数	7
15 令和7年の主な出火原因	7
16 出火原因別火災件数	8
17 出火原因別損害額	8
18 市町別火災発生状況	9
19 火災出動人員及び車両台数	10
II 救 急	
1 救急概要	11
2 救急出動状況	12
3 事故種別月別搬送人員	13
4 過去10年間の救急出動状況	13
5 発生場所別搬送人員	14
6 特定行為・除細動の実施状況	14
7 事故種別年齢区分別搬送人員	15
8 事故種別傷病程度別搬送人員	16
9 急病にかかる疾病分類別傷病程度別搬送人員	17
10 西村山管内におけるドクターヘリ運航状況	18
11 応急手当普及啓発活動の状況	19

※この統計中の各比率は、表示単位未満を四捨五入したものです。

I 火災

この統計をより理解していただくために

火 災 種 別

- | | | |
|---|-----------|--|
| 1 | 建 物 火 災 | 建物又はその収容物が焼損した火災。 |
| 2 | 林 野 火 災 | 森林、原野又は牧野が焼損した火災。 |
| 3 | 車 両 火 災 | 原動機によって運行することができる車両、鉄道車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災。 |
| 4 | 船 舶 火 災 | 船舶又はその積載物が焼損した火災。 |
| 5 | 航 空 機 火 災 | 航空機又はその積載物が焼損した火災。 |
| 6 | その他の火災 | 1 から 5 までに掲げる火災以外の火災。 |

焼 損 程 度

- | | | |
|---|-----|---|
| 全 | 焼 | 建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の70パーセント以上のもの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加えて再使用できないものをいう。 |
| 半 | 焼 | 建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20パーセント以上のもので全焼に該当しないものをいう。 |
| 部 | 分 焼 | 建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20パーセント未満のものでぼやに該当しないものをいう。 |
| ぼ | や | 建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の10パーセント未満であり焼損床面積が1平方メートル未満のもの、建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の10パーセント未満であり焼損表面積が1平方メートル未満のもの、又は収容物のみ焼損したものをいう。 |

1 火 災 の 概 要

令和7年に発生した火災は、20件で前年と比べ4件減少しました。

火災種別ごとの件数は、建物火災9件、林野火災2件、車両火災2件、その他の火災7件となっており、前年と比較すると、建物火災は1件減少、林野火災は2件減少、その他の火災は3件減少しましたが、令和7年は車両火災が発生しています。

令和7年は、大規模な建物火災が多く発生し、また、火元建物のみならず、隣接建物や付近車両への類焼も多く見られたことから、焼損面積や火災損害額が大幅に増加しています。

火災損害額は、1億1,169万9千円となり、建物火災の半数以上は損害額が1,000万円以上の火災となっています。

(前年との比較)

区 別 \ 年 別		令和7年 (A)	令和6年 (B)	比 較 (C) (A) - (B)
出 火 件 数		20	24	-4
火 災 種 別	建 物 火 災	9	10	-1
	林 野 火 災	2	4	-2
	車 両 火 災	2	0	2
	そ の 他 の 火 災	7	10	-3
焼 損 棟 数		30	19	11
世 帯 数		14	6	8
建物焼損床面積 (m ²)		2,546	1,801	745
建物焼損表面積 (m ²)		369	130	239
林野焼損面積 (a)		52	635	-583
死 者		2	5	-3
負 傷 者		3	3	0
火災損害額 (千円)		111,699	47,659	64,040

※令和7年においては、おおよそ18日に1件（前年は15日に1件）の割合で火災が発生し、1日あたり30万6千円（前年は13万1千円）の損害額となります。

2 月別火災発生状況

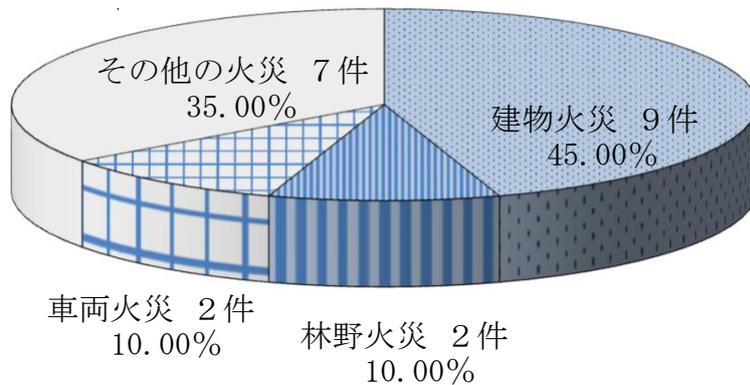
月別では4月が最も多く発生し、2月、10月、12月は発生しませんでした。

月別	出火件数					棟数	世帯数	焼損面積			死者	負傷者	損害額 (千円)
	計	建物	林野	車両	その他			建物 (㎡)		林野 (a)			
								床面積	表面積				
1月	3	1		1	1	6	2	747	11		1		19,329
2月	0												
3月	2	1	1			1				2			
4月	4	2	1		1	4	2	315	1	50		3	11,355
5月	3	1		1	1	3		62					1,970
6月	2	1			1	2	2	96	133				22,705
7月	3				3								
8月	1	1				5	3	498	16				27,238
9月	1	1				3	2	102	21		1		3,407
10月	0												
11月	1	1				6	3	726	187				25,695
12月	0												
合計	20	9	2	2	7	30	14	2,546	369	52	2	3	111,699

※焼損面積については、小数点第一位で四捨五入となります。

3 火災種別ごとの発生比率

建物火災とその他の火災で8割を占めています。



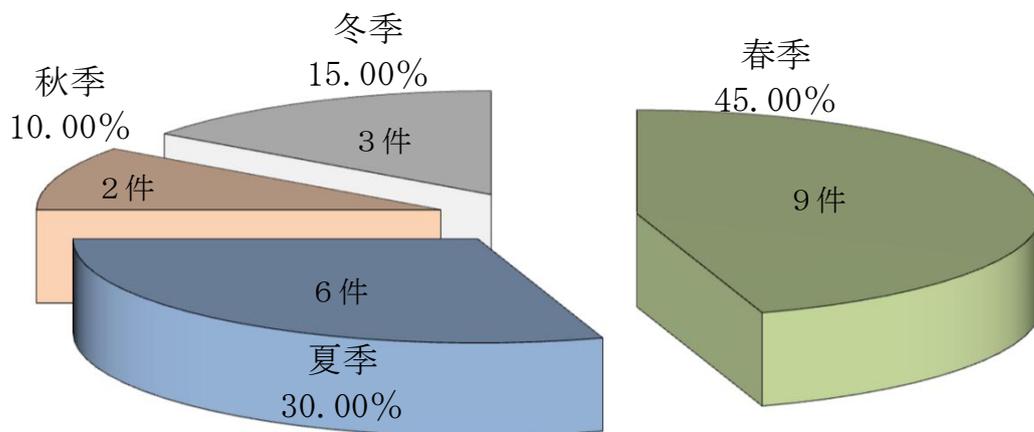
4 月別、市町別火災発生状況

西川町は火災発生がありませんでした。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
寒河江市	2		2	2		1	1						8
河北町	1			1	1				1		1		5
大江町					2		1						3
朝日町				1		1	1	1					4
西川町													0
合計	3	0	2	4	3	2	3	1	1	0	1	0	20

5 四季別火災発生状況

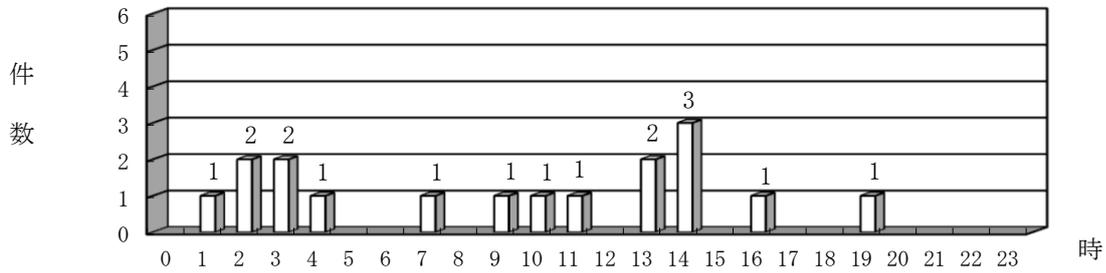
春季(3月～5月)及び夏季(6月～8月)で全体の約8割を占めています。



■春季(3月～5月) ■夏季(6月～8月) ■秋季(9月～11月) ■冬季(12月～2月)

6 時間別火災発生状況

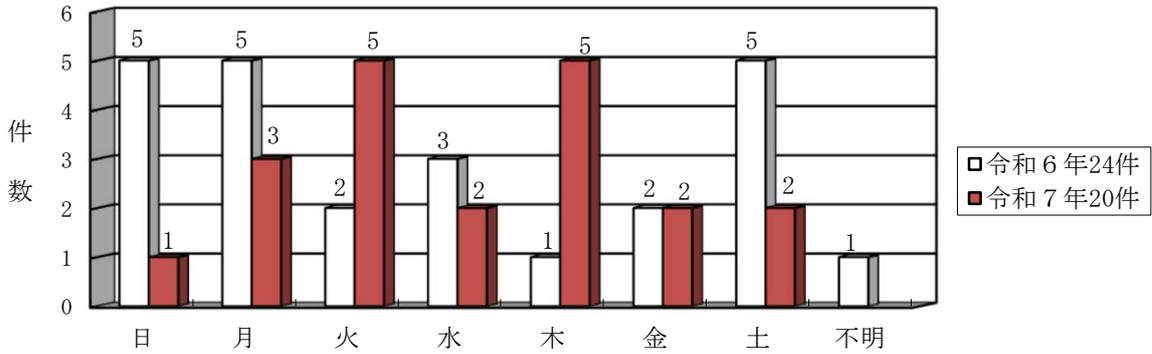
夜間における発生が少なく、日中の時間帯における火災が多くなっています。



※3件については発生時刻が不明となっております。

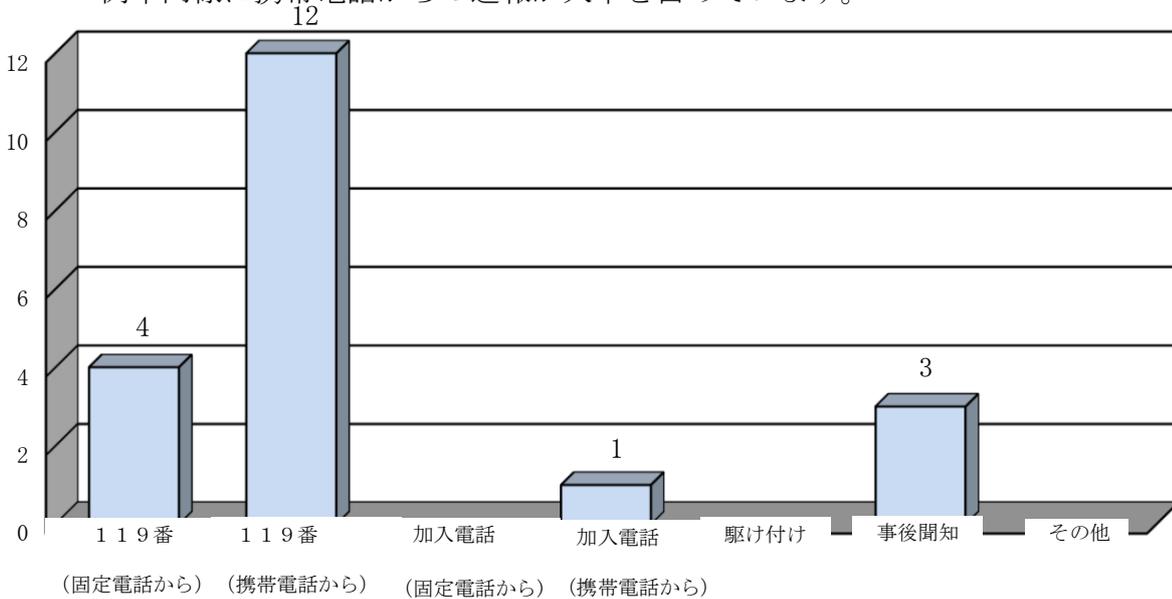
7 曜日別火災発生状況

どの曜日でも火災は発生していますが、火、木曜日が多くなっています。



8 覚知別火災発生状況

例年同様に携帯電話からの通報が大半を占めています。



9 過去5年間の火災件数と出火率

火災件数は前年よりも減少していますが、平均並みの件数となっています。

年別 市町別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
寒河江市	5 (1.7)	7 (1.2)	9 (1.7)	12 (3.0)	8 (2.1)
河北町	3 (1.7)	2 (1.7)	6 (1.2)	2 (1.2)	5 (3.0)
大江町	4 (5.1)	3 (5.3)	2 (4.0)	4 (5.7)	3 (4.4)
朝日町	4 (7.6)	2 (6.3)	2 (3.2)	3 (5.2)	4 (7.1)
西川町	0 (7.9)	1 (0.0)	1 (2.1)	3 (6.6)	0 (0.0)
合計	16 (2.9)	15 (2.1)	20 (2.0)	24 (3.3)	20 (2.8)

※ () ⇒ 出火率 (人口1万人あたりの出火件数)

10 過去5年間の市町別火災損害額

損害額については前年よりも大幅に増加しています。これは大規模な建物火災が多く発生したことが要因の一つとなります。

(千円)

年別 市町別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
寒河江市	14,453	23,110	1,259	2,246	19,781
河北町	554	23,545	16,213	350	29,163
大江町	2	1,828	0	22,481	1,970
朝日町	200	46	268,627	3,177	60,785
西川町	0	0	20	19,405	0
合計	15,209	48,529	286,119	47,659	111,699

11 過去5年間の火災種別件数

令和7年は車両火災が発生していますが、それ以外の種別での火災件数は減少しています。

年別 種別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
建物火災	6	7	11	10	9
林野火災	1	0	0	4	2
車両火災	0	3	3	0	2
その他の火災	9	5	6	10	7
合計	16	15	20	24	20

12 過去5年間の焼損程度別棟数（建物火災）

令和7年は全焼建物火災が大幅に増加したことに伴い、焼損棟数も比例し増加しています。

年別 種別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
全焼	2	4	3	7	16
半焼	0	1	1	1	0
部分焼	4	6	3	9	11
ぼや	5	2	5	2	3
合計	13	11	13	19	30

13 過去5年間の死傷者数

過去5年間で、死者が8名、負傷者は13名となっています。

年別 種別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
死者	1	0	0	5	2
負傷者	3	2	2	3	3

14 過去5年間の出火原因別火災件数

全焼火災が多く、不明・調査中が大半を占めています。過去5年で見ると、たき火やごみ焼きからの延焼などの焼却関係の原因が多くなっています。

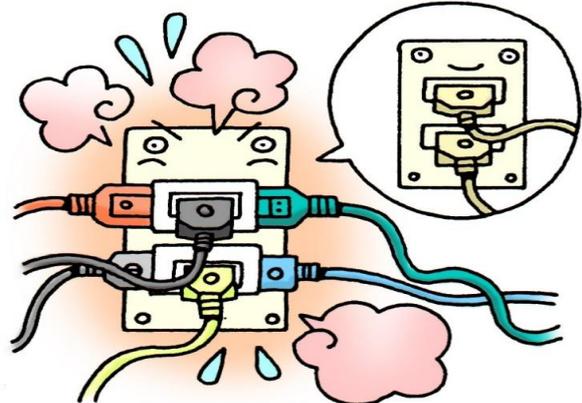
年 別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
出火原因					
たばこ				1	
こんろ	3		1		
風呂かまど					
焼却炉					1
ストーブ	1	1	1		1
こたつ					
ボイラー					
煙突・煙道		1			
排気管					
電気機器			1	2	
電気装置					
電灯・電話等の配線	1	2	1		
内燃機関					
配線器具				1	1
火遊び					
マッチ・ライター					
たき火	2	1	3		2
溶接機・溶断機					
灯火				1	
衝突の火花					
取灰		1	1		
火入れ	1			5	
放火				1	
放火の疑い	2	1			
その他	5	3	6	8	1
不明・調査中	1	5	6	5	14
合 計	16	15	20	24	20

15 令和7年の主な出火原因

不明・調査中を除き、たき火等が原因で発生する火災が多く、また、昨年同様に電気関係が原因で発生する火災が続いています。

たき火等 3件

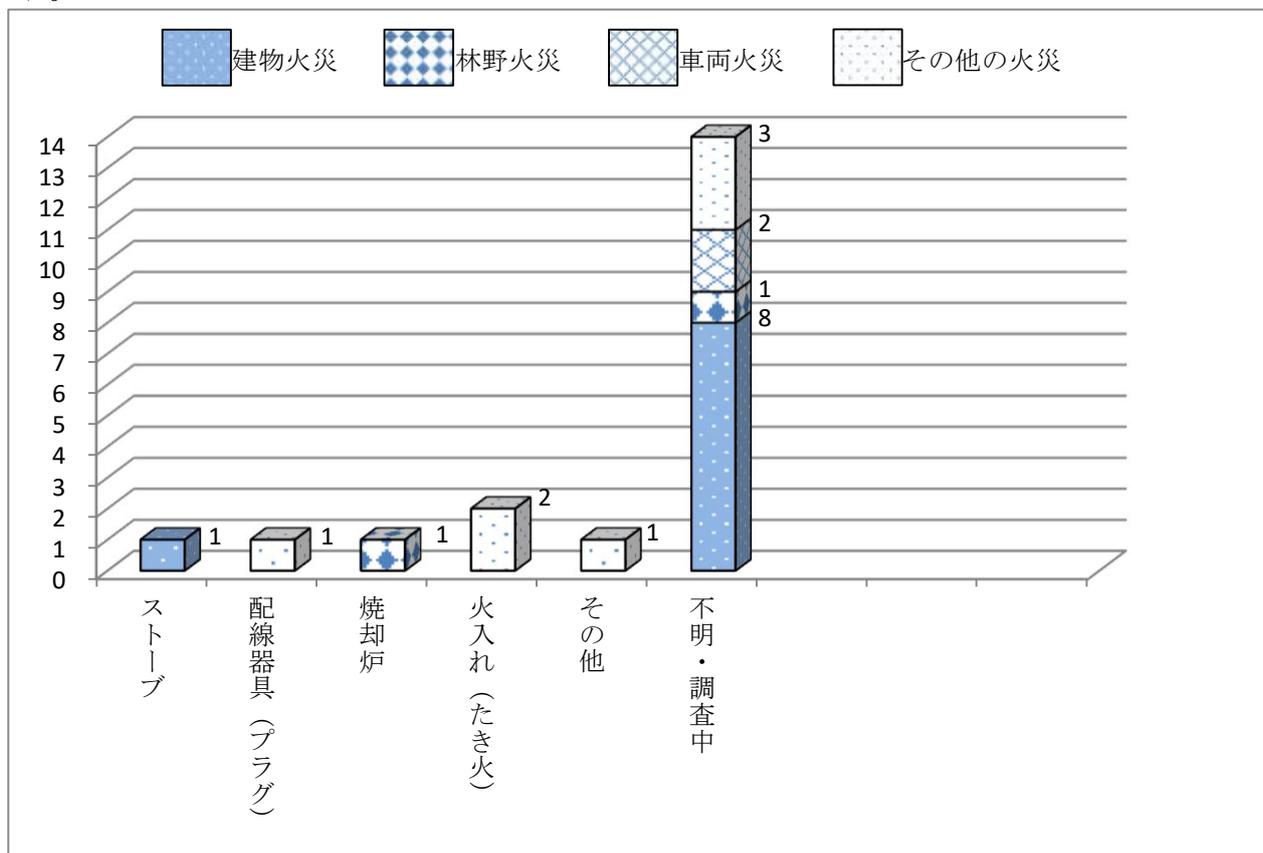
電気関係 1件



※たき火等とは、ごみの焼却を含んでいます。

16 出火原因別火災件数

「不明・調査中」を除いたなかで、火入れを原因とする火災が1番多くなっています。



17 出火原因別損害額

建物で全焼火災になると物的状況まで焼失してしまうことから、原因の特定が困難となります。そのため、不明・調査中の損害額がほぼ全体を占めています。

出火原因	ストーブ	配線器具	焼却炉	火入れ	その他	不明・調査中			合計
損害額(千円)	506	2	0	7	0	111,184			111,699

18 市町別火災発生状況

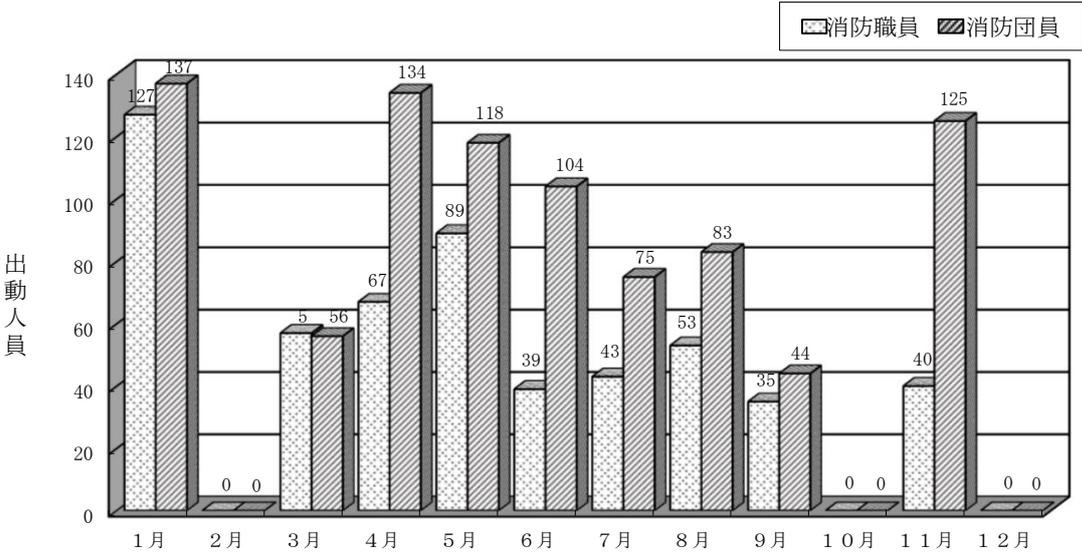
区分 市町別	出火件数	火災種別				焼損棟数				罹災世帯数				罹災人員	死傷者		焼損面積		火災損害額(千円)					
		建物	林野	車両	その他	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	全損	半損	小損		合計	死者	傷者	建物(m ²)	林野(a)	建物	収容物	その他	合計	
寒河江市	8	3	2	3	3	2	3	8	1	2	3	15	1		床	747	52	11,315	8,132	334	19,781			
															表	12								
河北町	5	2	1	2	3	6	9	2	3	5	14	1	1	床	828	23,267	3,209	2,687	29,163					
														表	208									
大江町	3	1	1	1	3		3							床	62	1,199	260	511	1,970					
														表										
朝日町	4	3		1	7	3	10	3	3	6	14			床	909	43,292	12,959	4,534	60,785					
														表	149									
西川町	0													床						0				
														表										
合計	20	9	2	2	7	16	0	11	3	30	6	0	8	14	43	2	3	床	2,546	52	79,073	24,560	8,066	111,699
																		表	369					

※建物焼損面積欄の「床」は焼損床面積・「表」は焼損表面積を表す。

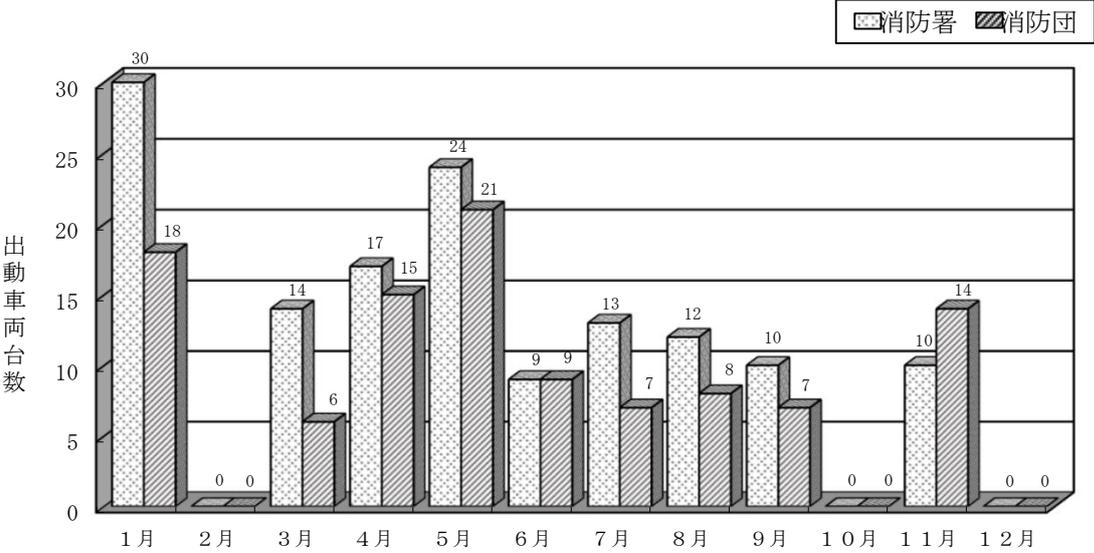
19 火災出動人員及び車両台数

春季に火災が多く、特に4月と5月は多くの消防職員、消防団員が出動しています。

出動人員 消防職員550人 消防団員876人



出動車両台数 消防署162台 消防団122台



II 救急

この統計をより理解していただくために

救急事故等の種別を次の11種類に分類しています。

- (1) 火 災 火災現場において直接火災に起因して生じた事故をいう。
- (2) 自然災害 暴風、豪雨、豪雪、高潮、津波、噴火、雪崩、地すべり、その他の異常な自然現象に起因する事故をいう。
- (3) 水 難 水泳中【(6) 運動競技によるものを除く】の溺者又は水中転落等による事故をいう。
- (4) 交通事故 すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故、若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故をいう。
- (5) 労働災害 各種工場、事業所、作業所、工事現場等において就業中発生した事故をいう。
- (6) 運動競技 運動競技の実施中に発生した事故で直接運動競技を実施している者、審判員及び関係者等の事故をいう。
- (7) 一般負傷 他に分類されない不慮の事故をいう。
- (8) 加 害 故意に他人によって傷害等を加えられた事故をいう。
- (9) 自損行為 故意に自分自身に傷害等を加えた事故をいう。
- (10) 急 病 疾病によるもので救急業務として行ったものをいう。
- (11) そ の 他 転院搬送、医師・看護師搬送、医療資器材等の輸送、その他のもの【(1) から (10) の救急事故に分類不能のもの及び誤報、いたずら等で救急事故等の不明なものを含む】をいう。

1 救 急 概 要

令和7年の救急出動件数は3,836件（前年より268件増）、搬送人員は3,576人（前年より231人増）となっており、特に高齢者の搬送にあっては全体の75.3%となっています。西村山管内における高齢者人口の推移では令和7年以降、高齢者人口は年々減少傾向にあるものの、高齢化率は上昇していくことが予想され、今後も高齢者の救急搬送が半数以上を占めることが予想されます。また、令和4年から令和6年まで救急出動件数、搬送人員は横ばいでしたが、令和7年は増加しています。増加件数では、事故種別で急病、一般負傷、転院搬送で主に増加しています。増加率では、年齢区分で成人が増加し、傷病程度別で重症、中等症が増加しています。

傷病者搬送先にあっては、平成23年4月1日から実施している「傷病者搬送及び受け入れの実施に関する基準」に従い、脳疾患・心疾患・小児科領域等は、専門的治療が可能な病院へ搬送を行っています。

救急救命士が行う特定行為として、心肺停止後の気道確保が2件、心肺停止後の薬剤投与が35件、低血糖発作症例に対するブドウ糖溶液の投与を12件、心肺停止後の静脈路確保及び輸液が57件、心肺停止前の静脈路確保及び輸液が161件実施しており、傷病者の救命率向上を目指しています。

ドクターヘリの出動が63件となっています。急性心筋梗塞、脳卒中や重症外傷等の傷病者に早期治療を施すことを目的とし、社会復帰や後遺症の軽減を図っています

環境及び疾病構造の変化に伴い、救急業務に対する住民の要望も多様化しております。住民の期待に応えられるよう救急隊員と救急救命士を養成するとともに、研修会や病院実習を通して、救急医療の高度化に対応する知識と技術の研鑽に努めております。また、通信指令員においても救急教育研修を受講し、119番入電時から適切なアドバイスができるような態勢を構築しています。

2 救 急 出 動 状 況

救急隊毎の出動状況です。出動件数は3,836件で前年に比べ268件増加しています。搬送人員は3,576人で前年に比べ231人増加しています。

また、出動件数では一日平均10.5件出動し、管内住民の約20人に1人が救急搬送されたこととなります。

事故種別のうち出動件数が最も多かったのは「急病」であり、全件数の65.3%を占めています。

令和7年1月1日～令和7年12月31日

隊別	事故種別	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				
													転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 材 搬 送	そ の 他	
本署救急隊	出動件数	2,073	4		1	95	28	9	303	2	12	1,392	223			4	
	不搬送	137			1	11	1		24		4	91	1			4	
	搬送人員	1,942	4			88	27	9	279	2	8	1,303	222				
河北救急隊	出動件数	788				28	7	4	112			471	165			1	
	不搬送	48				3	2		6			36				1	
	搬送人員	742				27	5	4	106			435	165				
大江救急隊	出動件数	381	1		1	15	5		72	1	3	269	14				
	不搬送	35	1		1	7	1		6	1	1	17					
	搬送人員	348				9	4		66		2	253	14				
朝日救急隊	出動件数	296				14		1	63		1	191	26				
	不搬送	17				2			2		1	12					
	搬送人員	281				14		1	61			179	26				
西川救急隊	出動件数	298				12	2	1	75		1	182	22			3	
	不搬送	37				2			17		1	14				3	
	搬送人員	263				11	2	1	59			168	22				
合 計	出動件数	7年	3,836	5		2	164	42	15	625	3	17	2,505	450			8
		6年	3,568	2		2	163	41	13	539	5	28	2,368	405			2
	不搬送	7年	274	1		2	25	4		55	1	7	170	1			8
		6年	235			2	26			31	1	8	165				2
搬送人員	7年	3,576	4			149	38	15	571	2	10	2,338	449				
	6年	3,345	2			149	41	13	508	4	20	2,203	405				

3 事故種別月別搬送人員

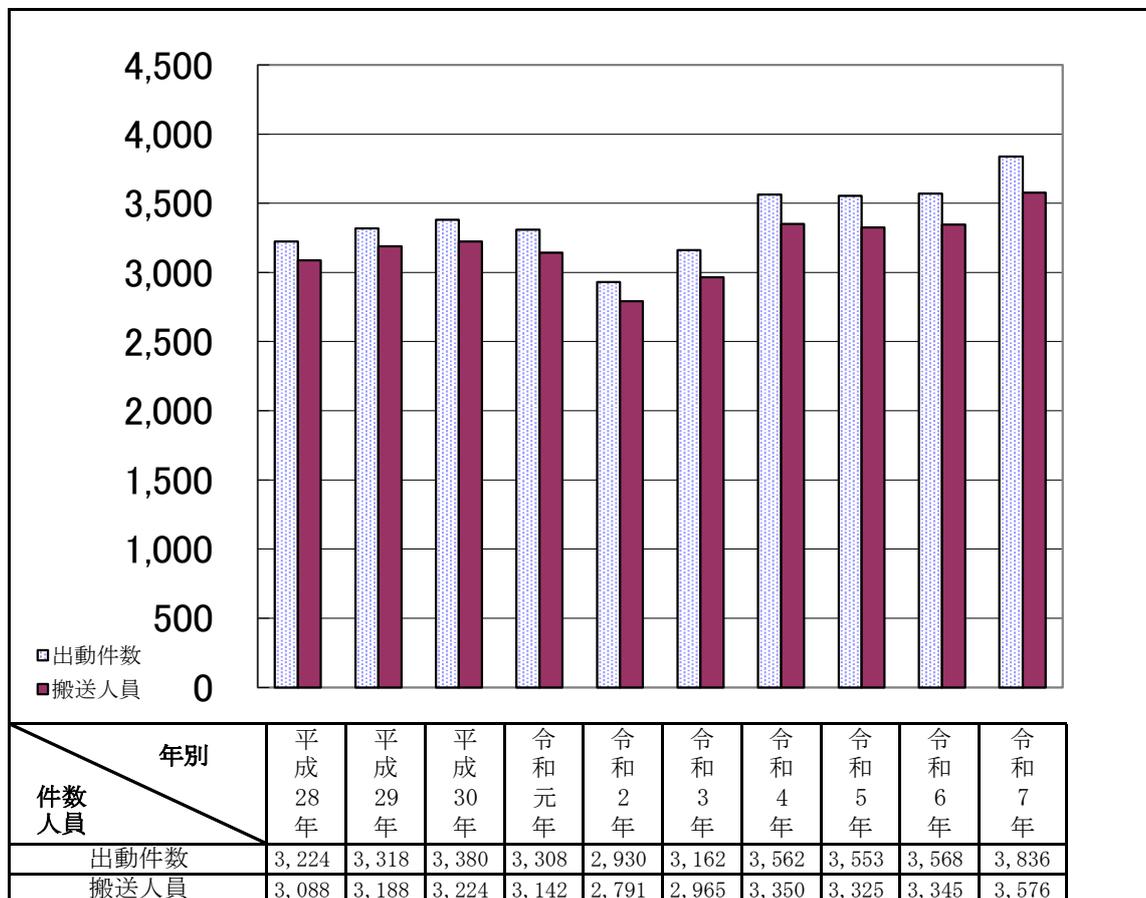
月毎の搬送状況です。搬送人員を月別に見ると、1月が最も多く、次いで12月の順となっています。事故種別では「急病」が全体の65.4%を占め、次に「一般負傷」が16.0%となっています。

令和7年1月1日～令和7年12月31日

種別 月別	事故	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送等
1月		336	1			6	3	3	51			230	42
2月		309				12	6	3	56			196	36
3月		279				11	2		54	2	2	171	37
4月		287	3			12	4	1	38		1	181	47
5月		278				15	3	1	34			194	31
6月		310				13	5		50		1	198	43
7月		307				13	2	4	43			202	43
8月		288				16	1	2	48		2	196	23
9月		279				11	1		56		1	169	41
10月		281				14	3		47		1	184	32
11月		299				7	4		43		1	210	34
12月		323				19	4	1	51		1	207	40
合計		3,576	4			149	38	15	571	2	10	2,338	449

4 過去10年間の救急出動状況

平成28年からの出動状況です。令和7年の出動件数は3,836件、搬送人員は3,576人であり、昨年より増加しています。



5 発生場所別搬送人員

事故種別ごとに発生場所別搬送人員を分類した表です。住宅での発生が2,168人と最も多く、次いで公衆出入場所の1,048人となっています。

令和7年1月1日～令和7年12月31日

発生場所 事故種別	合計	住宅	公衆出 入場所	仕事場	道路	その他
合計	3,576	2,168	1,048	86	205	69
急病	2,338	1,779	460	52	28	19
交通事故	149	3	2		139	5
一般負傷	571	372	117	4	35	43
その他	518	14	469	30	3	2

6 特定行為・除細動の実施状況

救急救命士が行う特定行為（気道確保・薬剤投与・静脈路確保）と救急隊が行う除細動の実施状況を隊別に分類した表です。

令和7年1月1日～令和7年12月31日

隊別 特定行為	合計	本署 救急隊	河北 救急隊	大江 救急隊	朝日 救急隊	西川 救急隊
気道確保	2				1	1
薬剤投与 (アドレナリン)	35	18	6	6	3	2
薬剤投与 (ブドウ糖溶液)	12	5	1	2	3	1
静脈路確保 (心肺機能停止)	57	32	6	9	6	4
静脈路確保 (心肺機能停止前)	161	106	23	17	9	6
合計	267	161	36	34	22	14
除細動	6	2		3	1	

- (1) 気道確保
気道確保をより確実に行えるよう、ラリングアルマスクや食道閉鎖式エアウェイまたは気管挿管チューブを用いて、より確実に気道確保を行います。
- (2) 薬剤投与
薬剤（アドレナリン・ブドウ糖溶液）を投与します。
- (3) 静脈路確保
心肺機能停止または心肺機能停止前の傷病者に対し、末梢静脈を使用し点滴を実施しま
- (4) 除細動
自動体外式除細動器（AED）を使用して電気ショックを実施します。

7 事故種別年齢区分別搬送人員

事故種別ごとに年齢区分別搬送人員を分類した表です。3,576人の搬送中、高齢者が2,691人で75.3%、成人が688人で19.2%となっております。

令和7年1月1日～令和7年12月31日

事故種別 年齢区分	合計	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他
合計	3,576	4			149	38	15	571	2	10	2,338	449	
新生児	1											1	
乳幼児	96				1			12			80	3	
少年	100				11		12	17		1	54	5	
成人	688	1			85	26	2	81	2	5	415	71	
高齢者	2,691	3			52	12	1	461		4	1,789	369	

年齢区分は、次のとおり分類している。

- (1) 新生児 ----- 生後28日未満をいう。
- (2) 乳幼児 ----- 生後28日以上、満7才未満をいう。
- (3) 少年 ----- 満7才以上、満18才未満をいう。
- (4) 成人 ----- 満18才以上、満65才未満をいう。
- (5) 高齢者 ----- 満65才以上をいう。

8 事故種別傷病程度別搬送人員

事故種別ごとに傷病程度別搬送人員を分類した表です。3,576人の搬送人員中、軽症が38.0%、中等症が40.9%、重症が18.0%、死亡が3.1%となっています。概ね、適正に救急車を利用しているようです。

事故種別全体では軽症と中等症が78.9%を占めていますが、転院搬送では重症と中等症が多く89.7%を占めています。

令和7年1月1日～令和7年12月31日

事故種別 傷病程度別	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	転 院 搬 送	そ の 他
合 計	3,576	4			149	38	15	571	2	10	2,338	449	
死 亡	112	1			1	1		11		3	94	1	
重 症	645	1			14	10		148		1	350	121	
中 等 症	1,461	1			28	11	2	173		4	960	282	
軽 症	1,358	1			106	16	13	239	2	2	934	45	

傷 病 程 度 分 類

傷病程度は、初診時における医師の診断に基づき次の4種類に分類する。

- (1) 死 亡 初診時において死亡が確認されたものをいう。
(傷病者があきらかに死亡している場合、又は医師が死亡していると判断した場合は、原則として搬送しない。)
- (2) 重 症 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするものをいう。
- (3) 中 等 症 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないものをいう。
- (4) 軽 症 傷病の程度が入院加療を必要としないものをいう。

9 急病にかかる疾病分類別傷病程度別搬送人員

急病にかかる疾病分類に基づき傷病程度別に分類した表です。急病の搬送人員2,338人は、中等症が960人（41.1%）で最も多く、次に軽症が934人（39.9%）となっています。
また、疾病分類別搬送人員では、循環器系（脳疾患・心疾患等）が21.9%を占めています。

令和7年1月1日～令和7年12月31日

疾病分 傷病程度	合 計	循環器系		消 化 器 系	呼 吸 器 系	精 神 系	感 覚 系	泌 尿 器 系	新 生 物	そ の 他	不 明 確
		脳 疾 患	心 疾 患 等								
合 計	2,338	207	304	200	252	79	158	124	63	486	465
死 亡	94	4	76	3	4			1		1	5
重 症	350	77	78	36	44	4	2	24	16	51	18
中 等 症	960	115	91	116	140	18	53	61	40	195	131
軽 症	934	11	59	45	64	57	103	38	7	239	311

急病にかかる疾病分類とは、急病において、初診時における医師の診断に基づく傷病名を、「世界保健機構」で定めた国際疾病分類を基準に、次のとおり区分したものである。

- (1) 脳疾患 脳疾患とは、循環器系の疾患のうち「脳梗塞」、「その他の脳血管疾患」をいう。
- (2) 心疾患等 心疾患等とは、循環器系の疾患のうち「脳疾患」以外をいう。
- (3) 消化器系 消化器系とは、「消化器系の疾患」をいう。
- (4) 呼吸器系 呼吸器系とは、「呼吸器系の疾患」をいう。
- (5) 精神系 精神系とは、「精神障害」をいう。
- (6) 感覚系 感覚系とは、「神経系の疾患」、「眼及び付属器の疾患」、「耳及び乳様突起の疾患」をいう。
- (7) 泌尿器系 泌尿器系とは、「腎尿路生殖器系の疾患」をいう。
- (8) 新生物 新生物とは、「腫瘍」をいう。良性（非がん性）と悪性に分類される。
- (9) その他 その他とは、上記以外の大分類項に分類されるものをいう。
- (10) 不明確 不明確とは、「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」をいう。

※ 「〇〇の疑い」はすべてその傷病名により分類している。

10 西村山管内におけるドクターヘリ運航状況

令和7年に西村山管内へドクターヘリが出動した件数は63件(要請した件数は83件)となっています。

令和7年1月1日～令和7年12月31日

	要 請 件 数	出 動				未 出 動						
		合 計	現 場 出 動	病 院 間 搬 送	天 候 不 良 (途 中 帰 投)	キ ャ ン セ ル (途 中 帰 投)	合 計	時 間 外 要 請	天 候 不 良	キ ャ ン セ ル (出 動 前)	重 複 要 請	そ の 他
寒 河 江 市	35	28	25			3	7	1	3	2	1	
河 北 町	20	13	13				7		3	4		
大 江 町	10	8	7			1	2			1	1	
朝 日 町	12	10	10				2	1	1			
西 川 町	6	4	4				2		1		1	
合 計	83	63	59			4	20	2	8	7	3	

11 応急手当普及啓発活動の状況

年ごとの講習実施状況です。平成7年から集計しており、平成18年以降は年間3,000人を超える方に対し講習を実施してきましたが、令和2年からは新型コロナウイルスの影響で講習会の開催が減っています。

		合 計	実施要領に基づく講習							一 般 講 習	
			普通救命講習 Ⅰ	普通救命講習 Ⅱ	普通救命講習 Ⅲ	上級救命講習	救命入門 コース	普及員講習	普及員再講習		指導員講習
令和	回数	60	1		2			1	1		55
3年	人員	1,443	8		47			2	24		1,362
令和	回数	70	5					1	1	8	55
4年	人員	1,346	62					3	24	8	1,249
令和	回数	89	6		1			1	1	6	74
5年	人員	1,899	71		55			8	31	6	1,728
令和	回数	107	6					1	1	3	96
6年	人員	2,515	117					5	24	3	2,366
令和	回数	131	8		2			1	1	1	118
7年	人員	3,692	101		82			5	27	1	3,476

平成7年からの累計

延講習回数	3,114	351	2	15	3			30	32	106	2,575
延受講人員	88,192	8,001	26	278	74			300	586	229	78,698

啓発活動の区分は次のとおり分類している。

- | | | |
|-------------|---------|---|
| (1) 普通救命講習Ⅰ | (3時間) | 住民に対する標準的な講習 |
| (2) 普通救命講習Ⅱ | (4時間) | 一定頻度で心肺蘇生を行う可能性のある者に対する講習 |
| (3) 普通救命講習Ⅲ | (3時間) | 小児・乳児・新生児を対象とする講習 |
| (4) 上級救命講習 | (8時間) | 普通救命講習より高度な講習 |
| (5) 救命入門コース | (90分) | 胸骨圧迫・AEDの取扱いを主とした講習 |
| (6) 普及員講習 | (24時間) | 主として事業所又は自主防災組織等において、当該事業所の従業員又は自主防災組織等の構成員に対して行う救命講習の指導に従事する者の普及員の資格取得後、3年が経過した者に対して行う講習 |
| (7) 普及員再講習 | (3時間) | |
| (8) 指導員講習 | (8時間) | 普及員講習、普通救命講習及び上級救命講習の指導に従事する者の講習 |
| (9) 一般講習 | (3時間未満) | 学校、各種団体への短時間の講習 |

令和7年火災・救急統計

西村山広域行政事務組合消防本部
〒991-0003
山形県寒河江市大字西根字石川西300番地1
TEL 0237-86-2595
FAX 0237-86-3406